

小三島 育友会報

発行・育友会
編集・文化部

子ども会の運営と反省

元舟津 元島 和男

元舟津子ども会の発足は学校・家庭・社会が一体となって子どもの健全な育成に当る目的で昭和三十年頃から約十年間指導者の方たちのたゆまない努力と、みんなの方の暖かい見守りの中に成長してきました。

さて、現在子ども会の組織として、町内を三班に分け学校の少年団とは別の組織として、中学生、小学生を含めた、町ぐるみの組織にしております。そして班ごとに一年生から三年生、四年生から六年生、それに中学生の三つのグループに分け代議員、指導員が、指導および援助を行っております。

団長・副団長は中学生がなっております。子ども会の運営は、子どもたちの自主的な運営に任せ、役員や父兄は子ども会に出席して助言や指導を行なうだけですが、大人が出席するときと、しないときでは、特に中学生の騒ぎなど子どもたちの態度がちがいますので、父兄も自分たちがやっ

ている気持ちになって協力し、更に子どもたちが進んで協力するようにしむけています。会合は班会を毎月第二土曜日の夜、全体会を毎月第一土曜日としております。毎月最低一回は守っておりますが今までの経験で二回以上の会合が望ましく思います。子ども会では次のような活動をしております。

●集団登校
毎朝七時三十分から四十分、班長が携帯マイクで呼び集め、早く来た者は歌をうたいながら待ち、一しよに登校しております。

●よい歌
○学校へ行こうという気をおこさせる。

○親が安心できる。
○忘れ物がなくなり、したがって、走って忘れ物をとりに行くための事故がなくなる。ただ集団登校の問題点として残るのは、親の協力が必要であるということと今までの経験では特に冬の集合が良くないということですが、現在九五名が参加しております。

○火の用心まわり
「お父さんお母さん、ねる前にもう一回火の始末をみて下さい。火の用心」と毎夜交代で、九時になるようにしております。今まで四年間続けて来ており親からも、町内の人や隣町の方々からも大変喜ばれております。もちろん子どもも夜回りを語りとして苦にせず、毎夜一晩も欠かざす続けております。

○市民体育あとの掃除
これも四年間続けておりますが、小学校四年以上中学生まで約五十名で、大体五時三十分頃までに終わっております。このばあいは指導員も一しよに手助けしております。

○町内運動会
四月の春休みに町内で運動会を実施しておりますが、井当は町内で炊き出しをして作っております。(予算は一人当り四五円から五十円程度で、タフアン、テンブラ、竹輪一本程度の簡単な

な弁当)。
概略のような組織によって運営し活動を続けてまいりました。

卒業して行った子ども達は県外にあって、少年団の思い出を忘れ得ず、給料の一部を団費にと送金してくれ、感謝の気持ちをお現わしております。喜びも悲しみも憤りも共にぶちまけて子どもたちに当って来た私の胸の中に、反省として残るものは、

一、少年団の運営は、子どもたちの自主的なものでなければならぬが、指導員の熱意と指導が必要である。
二、子ども達のつどいはできる限り月一回以上あることが好ましい。例会が遠のくと子どもたちの心のつながりがうすれる。

三、親の協力が絶対必要である。例会や行事には親がすすめて出席させてもらう。
四、例会の在り方は、まず簡単なことから始め、楽しいふんいぎを作ってみる。

五、中学生との関係をうまくやらねば、中学生がぶつこわすおそれがある。
六、学校の先生を頼りにせず、とも角にも指導員の方でやってみる。困った場合は指導をうける。
七、指導員の選定は慎重に、名まえだけの指導員では熱心にやる人がばからしいという気持ちで継続しない。

以上のようなことが考えられますが、一にも二にも親の協力が必要です。
十年続いた元舟津少年団も今大きな壁にぶち当たっております。指導員がお互い多忙なため、熱意を示し得ないことが、子どもたちとの心のつながりをうすくしていること、更にはまた、親の間にもなれつになって、少年団への関心がうすくなっていること等が原因になっているようです。

この打解策が私共に課せられている当面の課題でもあります。みんなが少年団を育て、立派な人間づくりに協力しましょう。

町内(学級)育友会の

出席に関する調査

(文化部)

課題についてのアンケートをとりまとめましたところ、つきがよ
●平均出席率

1. 町内青友会、よい町内でヒ○パーセント、よくない町内で三〇パーセントが平均。
2. 学級青友会、よい学級で七〇パーセント、よくない学級で三〇パーセントが平均。
- 町内青友会に出席のわるいと思われる原因。
 1. 連絡不十分のため、会合のあったことを知らなかった。
 2. 出席しても、会の内容に魅力を感じない。
 3. 会場となる場所や、世話役等に、気まずい思いをしている。
 4. 今までに一度も出席していないので、今さらはずかしくて出られない。
 5. 職業的(商売・漁業)に、出席ができないときがある。
 6. 夫婦共稼ぎのため、あるいは家庭内職をしているから、時間的に融通がきかないときがある。
 7. 乳幼児や子どもをおきっぱなしにしなければならないから、出られない。
 8. 教育的な関心が薄いため、開会や閉会の時間が守られないため。特に開会がいつになるかわからないと、女は出にくい。
 10. テレビの番組に連続物があるときは、出たくない。

と思われる原因。

1. 教育的な関心が薄いため。
2. 共稼ぎや内職をしている家庭が多いため。
3. 高学年の子どもは、親が学校に来ることをきらい、家庭に連絡しないことがある。
4. 学級青友会が低・高学年同時に、あるいは近接期間内にあるときは、親は低学年の方に出席して高学年の方には来ないことがある。
5. 服装やことばづかいに気が

”夏季巡回文庫の利用について”

佐々川 統 州

本年度で第二回の巡回文庫に当り、代議員をはじめ会員のみなさんの御理解と御協力により昨年より七三冊増の延二八三冊実人員二二八名の利用をいたしたことをお知らせできることをうれしく思います。

1. 町内別文庫利用

表一の状況を見ますと、平均二・六・五と昨年よりも約一〇%程度も利用者が増し、最高も昨年度のトップ広馬場上(五二%)と比較しますと津町(七六%)と伸び、他町内をリードし次いで八幡、元舟津とつづいています。

とくに津町で代議員の方

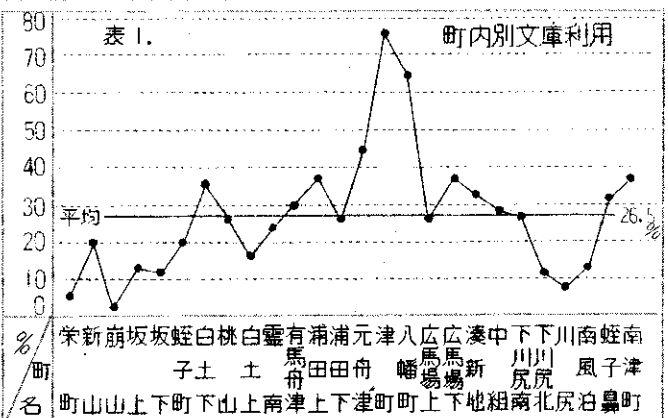


表2. 夏休みの利用図書 (利用の多かった本)

1. 母親読本
2. 私のおかあさん
3. しつけのすべて
4. 日本の歴史
5. ママおうちが燃えている
6. 否 っ 子
7. ことばの技術
8. 人間の生き方
9. 1〜6年家庭指導
10. 子どもの算生活

冊数 283 冊
実人員 228 名

また各人各様の週刊誌、単行本など相当読まれているのではないだろうかという意見も見えます。

2. 読書傾向

どんな本が、よく読まれているか、次表を見てみるとわかりますように、母親読本は断然第一位を示め、ことばの技術七位、家庭指導が九位に入り、昨年九位の日本歴史が四位にランクされています。このことから質的な読書のへんりんが見られます。

これを更に「読書会」へと発展できたらと思

少ない。

・作文集など子どもへの指導に実際役立つような本をまわしてほしい。

3. その他

なおPTA文庫の書名を知っていたため、PTA文庫書名一覽表を作成付(六月)しました。が、御利用下さっています。

最後に文庫の準備のため、御多忙の中を、特に御指導御支援いただきました。

佐々川(下川尻) 広瀬(遠新地)



夏季巡回文庫を利用して

小鉢(津町)の各方々に感謝する
るとともに、今後とも文庫に対
する建設的な御意見を申し出
下されば幸甚に思います。

「津町における PTA文庫の反省」

津町PTA文庫がまわって来たのは、夏休みもあと五六日といった日の夕方でした。早速文化部の小鉢さんと、どうしたら多くの会員の方に読んでいただけるかを話しあいました。

「PTA文庫がまわって来ましたが、〇〇宅まで取りに来て下さい。」と回覧をまわして何人の方が読んで下さるでしょうか。それより文庫がまわって来たことをお知らせした方が、本を見ていただくことが一番です。本を手にとられると、ページをパラパラとめくられるでしょう。「おや、良いことがかいてある」「ためになりそうだ」「読んでみよう」となりそうです。

会員数二四、本が二六冊、文芸ものから教育、歴史ものと各々二冊ずつの組み合わせになっているのも好都合です。本を二冊に分けて、指導員の方の協力を得て、各戸をおたずねしてみました。そして三日間で一応返えしていただいて、後半は自由

津町

林 百合子

貸し出しということにしました。学校のPTA文庫を町内にまわして下さるということは、ほんとにありがたい、すばらしい思いつきです。読みたくても学校まで貸りに行くのはおっくうです。町内ですと気軽に読めます。私自身日頃本を読むことにはすっかり遠ざかっていたのですが、この機会に室生屋星さんの「杏っ子」をよまさせていただきました。『室生屋星』の名前がむずかしく読むのを敬遠しがちでしたが、他の小説にはない詩情のあふれる文と、がっちり

と確かな描写にすっかり感銘させられました。「杏っ子」がさ

その水になって、つづけて同じ著者の「幼年期」など二、三篇さがしてよんでたのしみでした。これもPTA文庫のお陰です。しかし一般に堅い内容の本が多いこと、そして古すぎて魅力がうすいことを皆さんがおっしゃるのです。家事の余暇に読む

津町

松本 絹子

文化部を中心とした読書活動がさかんに行なわれていることを嬉しく思っております。日頃家事、育児に追いまわされている私に読書する機会を与えて下さいました。

心の豊かさや知識を求めようとするのが、子どもの成長に目に見えない力を与えるのではないのでしょうか。子どもには本を読めとい

いながら、私自身家事の忙しさにまぎれて、あまり本を読まな

ました。まだまだいくらも内容の充実した書物が図書室にはあると思えます。お互いのためになる本は少しでも子どものために知識を深めて、遅れないように、またおいておけりにきれないように、うんとがんばって読みたいと思います。

津町

小 見 川

私達の町内では代議員の方がお忙しいのに、各戸に足を運んで下さって、読ましていただきました。私が読書しましたのは

六年生の四教科の学習についてのわかりやすい書物でしたが、まだ読みたい外がらに、日数が足らずお返ししました。できればもう少し日数が欲しいと思

津町

大場 勘四郎

巡回文庫大変お世様でした。読みたい本、読みたくなる時期、知りたい事項等、人それぞれ生活のリズムから、限られた冊数を最も有効に利用することに、係の方々が御苦労されたことと感謝しました。

残念ながら数冊読んだ内容についての感想がないのです。最近「アラバマ物語」を数日かけて読みました。その際、長男(五年生)が、毎日熱心に私を観察して、珍らしそうにして

ました。三日目には私の横に寝ころんで、児童文学全集を引っぱり出して読み始めました。寝ころんで読む私の習慣を反省しつつも、親が本を熱心に読んでいたことが、子どもの読書心を誘ったのだろうか、読書の与える効果の一面を考えさせ

られました。
最後にお願ひですが、巡回文庫実施の時期を十一月に掛けて実施してもらいたいものです。夏には暑さに弱い人も多いのではないのでしょうか。

津 町 津 田

夏季巡回文庫を手にした時、なかなか読む気になれなかった。その要素の一つとして、今年の本ほど、暑さという点で、今年を知らなかった私の意志の弱さからでもあったのでしょうか。

そうして、もう一つの要素は夏負けする私のからだの弱さもこれにプラスされていたといえるような感じが、脳奥を去来するするのを知ったのであります。私は、幸か不幸か、巡回文庫の數十冊の中の一冊である「結婚」を聞き、ページをめくることになりました。

初めの間は、何となく全くの小説的で、現実をはなれたテーマのようで、現実的な直感が浮ばず、実感に触れることもできず、流し読みのスペースもだんだん広まって行くようになりました。

しかし、時がたつにつれて、いつの間にかこのスペースの幅も狭くなり、後半に至りやうと、それこそ食いつくように、

そして夜おそくまで、一行着らず、浅らさず読みつづけるようになったのであります。

長らく読書の座からはなれていた私には、珍らしく、読めば読書の読書欲がわいて来たのであります。

内容より受けた感想は、今更申しあげても、読まれた方の心の受け方で、いろいろ異なつたが、時代に移り変わりとともに、著者の御精進のほどが思い浮ばれ、立派なものであったというより形容のことは知らないのであります。

いよいよ秋も深まり、夜も長くなって参りました。おたかも読書の秋であり、また、食欲の秋でもあり、明日からまた秋の夜長を、鳴く虫の音を縁側の下に聞きながら、読みつづけることにいたしました。長らく寂れていた読書の虫が、やっと生きかえったことを、心うれしく一人感じながら……。



会員の声

○ 最近では会合の時など出席率が少ないように思われます。特に代議員、指導員、他の役員の方は責任をもって出席していただきたいと思います。子ども達にはやましくいいますけど、父兄も少しテレビの影響があるのではないかと思われれます。

○ 五、六年生児童の一部が運動会運営に協力していますが、その数をふやし、できれば午前午後交代制としてほしい。見物応援の五、六年生の中に仕事をしたい気持ちや下品な野次馬根性となって現われているようすは考えさせられる。

○ 道路掃除について、家庭で時間を見計って起こしてやれば時間を守れて、掃除の時間も短くてすむと思えます。もよいように協力してやったらよいと思えます。おかあさんが朝の忙しい時間にかせいで居られるのを見かけて感心しています。

○ 遠足の次の日にも疲れている

体で掃除をしていましたが、校長先生にはげまされて子ども達は張り切ったようでしたが、大分強行軍の翌日には可愛想な気もしました。日曜日に少し時間をおくらせてでもさせたらよかったですのではないかと思います。

○ たとえ、洗いだらしの色あせた服を着ていても、貴女の何気ないことばから、暖い人間性と内面の輝きを知ることができた時、ホッと救われたような安らぎを感じます。

○ 仕事の手をちよっと止めて、一日わずか三十分の読書を貴女のためにどうぞ。

○ 夏休みのソフトボール会は、子ども達が純心な気持ちで試合をし、勝敗のために友情を傷つけることがないように、大人達は暖い気持ちで、一歩離れた立ち場から見守ってやるようにしたいものです。

○ 四年生の両親字級に出席して、荒木先生の、考える人や、東大生を出した母親のお話は、大へんためになり、出席してよかったと思

編集後記

▼育友会員の皆様、お待ちかねの育友会報第八号ができましたのでお届けいたします。

▼ところで従来の会報には、代議員会や町内育友会などで報告されたことがらで記事として多くとりあげられていたため、どちらかといえば官報的な性格のものになっていたのでないかと思ひます。

▼そのため、今回は編集内容を一新し、一人でも多くの会員の方々に御登場願つて、新鮮味のある会報にしようと思ひ、編集してみました。

▼なかでも、元舟津の子ども会の運営や、巡回文庫を利用しての感想などは、皆様に大へん参考になる記事ではないかと思ひます。

▼会報は、皆様一人一人のものですが、立派な会報に育てあげていくため、ぜひ最後まで目を通されて、御感想御意見をどしどしおきかせください。

▼夏季巡回文庫を利用しての感想文、会員の声、たくさん御投稿いただきありがとうございます。紙面の都合で全部のせることができませんで、誠に申しわけありません。